

平成 2 7 年 4 月 2 0 日

山口県教育委員会会議議案

山口県教育委員会

議 案

番号	件 名	主 管 課
1	平成27年度山口県教科用図書選定審議会に対する諮問について	義 務 教 育 課

議案第1号

平成27年度山口県教科用図書選定審議会に対する諮問について

このことについて、別紙のとおり諮問する。

平成27年(2015年)4月20日

山口県教育委員会

平 2 7 教 義 第 号

平成 2 7 年 (2015 年) 4 月 日

山口県教科用図書選定審議会長 様

山口県教育委員会

教科用図書の採択の基準及び選定に必要な資料について (諮問)

義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律 (昭和 3 8 年法律第 1 8 2 号) 第 1 1 条第 1 項の規定に基づき、下記の事項について貴会の意見を問います。

については、 5 月 1 9 日 (火) までに答申願います。

記

- 1 義務教育諸学校における平成 2 8 年度使用教科用図書の採択の基準について
- 2 採択関係者に提示する平成 2 8 年度使用教科用図書の選定に必要な資料について

諮 問 事 項 の 要 旨

1 義務教育諸学校における平成28年度使用教科用図書の採択の基準について

義務教育諸学校の教科用図書の採択権者は、県教育委員会の指導、助言、または援助によって採択することになるので、これらの採択に関する事務が適正円滑に行われるために、県教育委員会は、次の事項に関し一般的な基準を示す必要がある。

- ① 義務教育諸学校の教科用図書（一般図書を除く）の採択について
- ② 一般図書（特別支援学校・学級用）の採択について
- ③ 教科用図書の採択に当たり特に留意すべき事項について

2 採択関係者に提示する平成28年度使用教科用図書の選定に必要な資料について

- (1) 今年度は、中学校用教科用図書について採択替えが行われる年であることから、諸種の角度から総合的に調査研究し、その特徴等を簡潔に叙述した「選定資料」を作成しなければならない。

したがって、次の事項について明らかにする必要がある。

- ① 「選定資料」を作成するにあたっての調査研究の観点について
- ② ①の各観点における調査研究の結果について

- (2) 一般図書（特別支援学校・学級用）は、文部科学省から示されている「平成28年度用一般図書一覧」に掲載された図書及び平成26年度に山口県で多く採択された図書のうち近年研究調査されていないものの一部を対象に調査する。

対象とした一般図書について、諸種の角度から総合的に調査研究し、その特徴等を簡潔に叙述した「選定資料」を作成しなければならない。

したがって、次の事項について明らかにする必要がある。

- ① 「選定資料」に掲載する一般図書及びその内容による分野について
- ② 「選定資料」を作成するにあたっての調査研究の観点について
- ③ ②の各観点における調査研究の結果について

報告事項

番号	件 名	主 管 課
1	平成27年度山口県公立高等学校入学者選抜のための学力検査等 得点状況について	高 校 教 育 課

平成 27 年度山口県公立高等学校入学者選抜のための学力検査等得点状況について

高校教育課

1 学力検査について

- (1) 実施日時 平成 27 年 3 月 10 日 (火) 午前 9 時から午後 3 時まで
- (2) 実施教科 国語、社会、数学、理科及び英語
- (3) 実施時間 各教科とも 50 分
- (4) 配点 各教科 50 点満点

2 学力検査得点状況について

- (1) 教科別の平均点 国語 35.2 点、社会 28.7 点、数学 26.2 点、理科 27.7 点、英語 29.9 点
 - (2) 「得点の合計」の平均点 147.7 点 (最高点 239 点)
 - (3) 「得点の合計」の分布状況 別紙のとおり
- ※ 入学者選抜実施状況については、別紙のとおり

3 学力検査の結果について

別紙のとおり

4 学校指定教科検査について

- (1) 実施日時 平成 27 年 3 月 10 日 (火) 午後 3 時 20 分から
- (2) 実施教科 国語、数学及び英語のうち、学校が指定した教科
- (3) 実施時間 1 教科実施は 20 分、2 教科実施は 40 分、3 教科実施は 60 分
- (4) 配点 各教科 20 点満点

5 学校指定教科検査得点状況について

- (1) 教科別の平均点 国語 13.3 点、数学 6.3 点、英語 8.3 点
注 2 教科又は 3 教科実施の場合、検査時間内の時間配分については、受検者の任意であるため、平均点は参考として示したものである。
- (2) 3 教科全てを受検した者の得点の平均点 28.1 点 (最高点 56 点)
- (3) 得点の分布状況 別紙のとおり

6 学校指定教科検査の結果について

別紙のとおり

平成27年度山口県公立高等学校入学者選抜のための学力検査得点状況

1 受検者数及び教科別得点状況

受検者数	7,834 (7,879)					
教科名	国語	社会	数学	理科	英語	得点の合計
平均点	35.2 (30.1)	28.7 (25.0)	26.2 (25.0)	27.7 (25.3)	29.9 (26.6)	147.7 (132.0)
最高点	50 (48)	49 (50)	50 (50)	50 (50)	50 (50)	239 (244)
最低点	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

- 注1 全教科を受検した者について集計したものである。
 注2 各教科とも50点満点、「5教科合計」は250点満点である。
 注3 ()内の数値は、昨年度のものである。

2 「得点の合計」の分布状況

得点範囲 [点]	人数 [人]	割合 [%]
241 ~ 250	0	0.0
231 ~ 240	14	0.2
221 ~ 230	117	1.5
211 ~ 220	350	4.5
201 ~ 210	546	7.0
191 ~ 200	659	8.4
181 ~ 190	588	7.5
171 ~ 180	578	7.4
161 ~ 170	589	7.5
151 ~ 160	542	6.9
141 ~ 150	565	7.2
131 ~ 140	508	6.5
121 ~ 130	490	6.3
111 ~ 120	463	5.9
101 ~ 110	435	5.6
91 ~ 100	374	4.8
81 ~ 90	331	4.2
71 ~ 80	248	3.2
61 ~ 70	182	2.3
51 ~ 60	118	1.5
41 ~ 50	90	1.1
31 ~ 40	26	0.3
21 ~ 30	15	0.2
11 ~ 20	5	0.1
0 ~ 10	1	0.0
合計	7,834	100

注 割合は、小数第2位を四捨五入したものである。

平成27年度山口県公立高等学校入学選抜実施状況

(注) Bの「推薦入学合格者数」における*の数値は、高森高校においては、高森みどり中学校からの入学選抜合格者数(39人)を、周防大島高校(普通科・地域創生科)においては、連携型入学選抜合格者数(普通科23人、地域創生科4人)を含む。
Fの「第一次募集合格者数」は、推薦入学合格者数を含む。

地域	学校名	学科名	入学定員	推薦入学合格者数	第一次募集募集定員	第一志願者数	受検者数	第一次募集合格者数	空き定員 第二次募集募集定員	第二次募集第一志願者数	第二次募集合格者数	第一次募集及び第二次募集合格者数 J=F+I	
			A	B	C=A-B	D	E (欠席者は含まない。)	F	G	H	I	J	
岩国	岩国	普通	240	—	240	259	251	240	0	—	—	240	
		理数	40	12	28	31	28	40	0	—	—	40	
	坂上分校	普通	30	1	29	29	28	29	1	1	1	30	
	広瀬分校	普通	30	2	28	17	17	17	13	3	2	19	
	岩国総合高森	総合学科	120	60	60	130	125	120	0	—	—	120	
	岩国商業	普通	120	* 68	52	65	65	120	0	—	—	120	
		総合ビジネス	80	40	40	65	63	80	0	—	—	80	
	岩国工業	国際情報	国際情報	40	18	22	15	15	40	0	—	—	40
			機械	35	18	17	29	26	35	0	—	—	35
			電気	35	15	20	29	22	35	0	—	—	35
都市工学			35	10	25	38	36	35	0	—	—	35	
システム化学	システム化学	35	16	19	29	28	35	0	—	—	35		
	周防大島	普通	75	* 32	43	20	19	48	27	15	9	57	
		地域創生	40	* 10	30	26	26	28	12	5	4	32	
	柳井	普通	150	30	120	134	128	150	0	—	—	150	
柳井商工		ビジネス情報	70	34	36	29	29	59	11	22	11	70	
	熊毛南	機械	35	12	23	33	31	33	2	0	0	33	
建築・電子		35	15	20	24	24	35	0	—	—	35		
井田布施農工	普通	105	27	78	83	81	105	0	—	—	105		
	生物生産	生物生産	35	14	21	40	40	35	0	—	—	35	
		食品科学	35	14	21	41	41	35	0	—	—	35	
		環境土木	35	4	31	44	44	35	0	—	—	35	
機械制御	40	5	35	38	37	35	5	11	4	39			
周南	光	普通	140	35	105	103	100	130	10	42	10	140	
		総合学科	120	36	84	118	118	120	0	—	—	120	
	下松	普通	200	29	171	194	176	200	0	—	—	200	
		華陵	普通	80	24	56	75	74	80	0	—	—	80
	英語		40	16	24	32	31	40	0	—	—	40	
	下松工業	システム機械	40	14	26	35	32	40	0	—	—	40	
		電子機械	40	13	27	30	29	40	0	—	—	40	
		情報電子	40	6	34	52	50	40	0	—	—	40	
		化学工業	40	4	36	30	30	36	4	11	4	40	
	熊毛北	普通	40	1	39	44	44	40	0	—	—	40	
		ライフデザイン	40	8	32	32	32	35	5	5	5	40	
	徳山	普通	280	—	280	366	356	280	0	—	—	280	
		理数	40	8	32	51	51	40	0	—	—	40	
	徳山北分校	普通	40	1	39	12	11	7	33	2	2	9	
	鹿野分校	普通	30	0	30	13	11	10	20	3	2	12	
	新南陽	普通	160	56	104	129	124	160	0	—	—	160	
徳山商工	総合ビジネス	総合ビジネス	40	20	20	28	27	40	0	—	—	40	
		情報ビジネス	40	12	28	30	30	40	0	—	—	40	
	機械	40	18	22	38	36	40	0	—	—	40		
	電子情報技術	40	8	32	34	31	40	0	—	—	40		
	環境システム	40	13	27	41	40	40	0	—	—	40		
南陽工業	機械システム	40	19	21	28	27	40	0	—	—	40		
	電気	40	9	31	26	25	40	0	—	—	40		
応用化学	40	20	20	33	33	40	0	—	—	40			

平成27年度山口県公立高等学校入学選抜実施状況

(注) Bの「推薦入学合格者数」における*の数値は、高森高校においては、高森みどり中学校からの入学人数(39人)を、周防大島高校(普通科・地域創生科)においては、連携型入学選抜合格者数(普通科23人、地域創生科4人)を含む。
Fの「第一次募集合格者数」は、推薦入学合格者数を含む。

地域	学校名	学科名	入学定員 A	推薦入学 合格者数 B	第一次募集 募集定員 C=A-B	第一 志願者数 D	受検者数 E (欠席者は含ま ない。)	第一次募集 合格者数 F	空き定員 第二次募集 募集定員 G	第二次募集 第一 志願者数 H	第二次募集 合格者数 I	第一次募集 及び 第二次募集 合格者数 J=F+I
防 府	防府	普通	240	—	240	312	299	240	0	—	—	240
		衛生看護	40	10	30	47	47	40	0	—	—	40
	佐波分校	普通	40	1	39	37	37	23	17	9	4	27
	防府西	総合学科	140	56	84	162	160	140	0	—	—	140
	防府商工	商業	120	48	72	104	101	120	0	—	—	120
		情報処理	40	16	24	24	23	40	0	—	—	40
		機械	80	20	60	70	67	80	0	—	—	80
	山口	普通	280	—	280	322	319	280	0	—	—	280
		理数	40	12	28	36	36	40	0	—	—	40
	徳佐分校	普通	40	1	39	30	29	19	21	2	1	20
	山 口 中 央	普通	200	20	180	223	218	200	0	—	—	200
		普通	120	18	102	184	180	120	0	—	—	120
		体育コース	40	30	10	14	14	40	0	—	—	40
		総合ビジネス	40	12	28	31	31	40	0	—	—	40
		情報処理	40	8	32	54	52	40	0	—	—	40
		山 口 農 業	生物生産	40	17	23	49	47	40	0	—	—
食品工学			40	10	30	53	52	40	0	—	—	40
生活科学	40		20	20	48	47	40	0	—	—	40	
環境科学	40		13	27	64	64	40	0	—	—	40	
厚 狭	宇部	普通	200	—	200	307	295	200	0	—	—	200
		理数	40	12	28	35	27	40	0	—	—	40
	宇部中央	普通	160	56	104	107	104	157	3	3	2	159
	宇部西	総合学科	160	14	146	157	156	160	0	—	—	160
	宇部商業	商業	120	54	66	85	84	120	0	—	—	120
		総合情報	40	8	32	30	30	40	0	—	—	40
	宇部工業	機械	40	15	25	49	43	40	0	—	—	40
		電子機械	40	16	24	46	42	40	0	—	—	40
		電気	40	8	32	45	42	40	0	—	—	40
		化学工業	40	14	26	36	34	40	0	—	—	40
	小野田	普通	160	48	112	162	142	160	0	—	—	160
	厚狭	普通	105	24	81	71	70	90	15	12	7	97
		総合家庭	40	13	27	37	37	40	0	—	—	40
		機械	40	11	29	49	48	40	0	—	—	40
	小野田工業	情報科学	40	7	33	59	59	40	0	—	—	40
		化学工業	40	11	29	56	56	40	0	—	—	40
美祢青嶺	普通	70	17	53	35	33	50	20	3	0	50	
	機械	30	6	24	24	24	23	7	6	3	26	
		電気	30	3	27	10	10	12	18	3	2	14

平成27年度山口県公立高等学校入学選抜実施状況

(注) Bの「推薦入学合格者数」における*の数値は、高森高校においては、高森みどり中学校からの入学者数(39人)を、周防大島高校(普通科・地域創生科)においては、連携型入学選抜合格者数(普通科23人、地域創生科4人)を含む。
Fの「第一次募集合格者数」は、推薦入学等合格者数を含む。

全日制

地域	学校名	学科名	入学定員	推薦入学合格者数	第一次募集 募集定員	第一 志願者数	受検者数 <small>(欠席者は含まない。)</small>	第一次募集 合格者数	空き定員 第二次募集 募集定員	第二次募集 第一 志願者数	第二次募集 合格者数	第一次募集 及び 第二次募集 合格者数 J=F+I
			A	B	C=A-B	D	E	F	G	H	I	J
下 関	田部	普通	40	9	31	33	33	40	0	—	—	40
		総合生活	40	16	24	41	41	40	0	—	—	40
	西市	普通	30	2	28	10	10	9	21	9	9	18
		生産流通	30	4	26	29	28	26	4	3	3	29
	豊浦	普通	200	50	150	170	157	200	0	—	—	200
		総合学科	140	56	84	120	120	140	0	—	—	140
	下関西	普通	200	—	200	224	222	200	0	—	—	200
		理数	40	16	24	18	17	40	0	—	—	40
	下関南	普通	160	48	112	145	140	160	0	—	—	160
		響	普通	80	11	69	81	80	80	0	—	—
	豊北	普通	60	7	53	36	35	40	20	9	7	47
		下関中央工業	機械・造船	140	42	98	195	195	140	0	—	—
	建築											
	土木											
	化学工業											
	下関工業	機械	70	35	35	46	41	70	0	—	—	70
電気		35	12	23	22	20	33	2	5	2	35	
電子		35	10	25	26	23	31	4	11	4	35	
下関商業	商業	170	68	102	148	146	170	0	—	—	170	
	情報処理	30	12	18	20	19	30	0	—	—	30	
萩	大津緑洋	普通	120	13	107	108	106	118	2	0	0	118
		生物生産	30	0	30	23	23	20	10	1	1	21
		生活科学	30	6	24	24	24	30	0	—	—	30
		海洋技術	30	5	25	44	43	30	0	—	—	30
		海洋科学	30	4	26	13	13	30	0	—	—	30
	萩	普通	120	—	120	127	127	120	0	—	—	120
		理数	30	12	18	18	17	30	0	—	—	30
	萩商工	総合ビジネス	35	16	19	22	22	35	0	—	—	35
		情報デザイン	35	14	21	22	22	35	0	—	—	35
		機械・土木	35	16	19	35	34	35	0	—	—	35
		電気・建築	35	16	19	31	30	35	0	—	—	35
	奈古	普通	30	4	26	9	9	12	18	0	0	12
		生物資源科学	30	2	28	13	13	12	18	2	1	13
全 日 制 計			8,370	1,982	6,388	7,939	7,691	8,027	343	198	100	8,127

平成27年度山口県公立高等学校入学者選抜実施状況

定時制

学校名等	学 科 名	入学定員 A	第一	受 検 者 数 C (欠席者は含まない。)	第一次募集 合格者数 D	空	第二次募集 第一 志 願 者 数 F	第二次募集 合格者数 G	合 格 者 数 第一次募集及び 第二次募集 H=D+G
			志 願 者 数 B			き 定 員 第二次募集 募集人員 E=A-D			
岩 国 商 業 (東分校)	普通昼間部	40	33	31	22	18	8	5	27
	普通夜間部	40	12	11	8	32	1	0	8
光	普 通	40	7	6	4	36	2	1	5
下 松 工 業	機 械	40	6	5	4	36	11	7	11
徳 山	普 通	40	16	16	9	31	5	5	14
防 府 商 工	普 通	40	12	12	9	31	13	6	15
山 口	普 通	40	16	14	12	28	7	3	15
宇 部 中 央	普 通	40	9	8	9	31	10	2	11
宇 部 工 業	機 械	40	11	11	5	35	8	5	10
小 野 田	普 通	40	5	4	2	38	2	3	5
厚 狭	商 業	40	2	2	1	39	2	2	3
小野田工業	機 械	40	6	6	4	36	5	1	5
下 関 西	普 通	40	23	19	8	32	7	1	9
下 関 工 業	機 械	40	8	7	6	34	2	2	8
下 関 商 業	商 業	40	7	7	5	35	6	2	7
定 時 制 計		600	173	159	108	492	89	45	153

平成27年度山口県公立高等学校入学者選抜

学力検査の結果の概要及び今後の学習指導に向けて

平成27年4月
山口県教育委員会

平成27年度山口県公立高等学校入学者選抜のための 学力検査の結果について

1 出題の概要

平成27年度の学力検査の出題については、中学校教育の発展と充実に資するよう、学習指導要領に準拠しつつ、以下のとおりとした。

- 基礎的・基本的な内容と応用的な内容について、均衡を図って出題した。
- 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等をみる問題を出題した。

2 結果の総評

- 各教科とも基礎的・基本的な事項に関する問題については、平素の学習の成果がよく表れていた。
- 資料や表・グラフ等から分かったことをまとめて適切に表現する力をみる問題や、論理的に考えたり柔軟に思考したりする力をみる問題については、更に努力が必要な状況がみられた。
- 今後とも、学習内容と生活場面・実社会との関連を考えながら学習することにより、学ぶことの意義や有用性を実感し、学習に対する興味・関心を高めることが必要である。また、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を更に身に付けていくことが大切である。

国語

1 出題の特徴

- 基本的な語句の知識を問う問題に加え、登場人物の考えや表現の特徴を読み取る問題を出題した。
- 文章の展開に即して、内容を的確に読み取る力や、読み取った内容を適切に表現する力をみる問題を出題した。
- 資料を基にした話し合いの内容を記録した文章を読み、「読書の大切さ」について自身の体験にふれながら作文する問題を出題した。

2 結果の概要

- 漢字の読み書きや古文・漢文を読む上での基礎的・基本的な知識を問う問題については、よくできていた。
- 文章の展開に即して、内容を的確に読み取る力や、読み取った内容を適切に表現する力をみる問題については、いま一歩であった。
- 作文については、課題を適切にとらえることができていないものも多く、必ずしも十分とはいえなかった。

3 課題がみられた問題例 《問題例①》

—

〈問題文は、まはら三桃「ぼくらの歩幅」から。ここでは省略。〉

- (五) 「先生の思ったとおりであったな」とあるが、どのようなことが思ったとおりであったのか。文章の内容に即して説明しなさい。

【正答例】 たすきを使うことで優斗の体が安定して、二人三脚がうまくいくこと。

【解答の状況】

- 「たすきを使うことで」という、登場人物の会話から読み取ることのできる表現のない解答が多くみられた。

【課題】

文章の展開や登場人物の言動から心情を的確に読み取ること。

《問題例②》

二

〈問題文は、清水真木「感情とは何か」から。ここでは省略。〉

(五) A 次の【説明】が段落Xの内容を表したものとなるように、Aには「疑問」という語を用いて十字以内で答え（中略）なさい。

【正答例】 何の疑問も抱かない

【解答の状況】

- 「疑問を抱かせない」など、空欄の前後の文脈が正しく理解できていない解答が多くみられた。
- 「不都合を感じない」など、「『疑問』という語を用いて」という条件を満たしていない解答がみられた。

【課題】

読み取った内容について、語と語や文と文のつながりに注意しながら、条件に従って適切にまとめること。

4 今後の学習指導に向けて

○ **文章の展開に即して内容を的確に捉える力の育成**

文章の中心的な部分と付加的な部分、具体的事例や筆者の意見などを読み分けることや、文脈の中における語句の意味を正確に理解し、指示語や言い換えなどに注意しながら文章の内容を的確に捉えることができるようにする。

○ **理解した内容を適切に表現する力の育成**

文章の内容を要約したり、自分の考えをまとめたりする活動に加えて、言語だけでなく、図表や絵などを含めた様々な情報を活用して、目的や場面に応じた適切な言葉で自分の考えを表現できるようにする。

○ **語彙を豊かにし、思考力を養う活動の充実**

読書の幅を広げることで語彙を豊かにするとともに、古典を含む様々な文章を読み比べて、構成や表現の仕方について考えたり、自分の意見をまとめたりしながら思考力を養う。

社 会

1 出題の特徴

- 身の回りの社会的事象に関心をもって学習を進め、基礎的・基本的な知識や概念を理解しているかをみる問題を出題した。
- 作業的・体験的な学習の場を設定し、学習した内容と資料を関連付けて考察し判断する力をみる問題や、資料を活用する技能をみる問題を出題した。
- 様々な資料を活用して考察した結果を適切に表現する力をみる問題を出題した。

2 結果の概要

- 基礎的・基本的な知識や概念の理解をみる問題については、おおむね良好であったが、一部に課題もみられた。
- 学習した内容と資料を関連付けて考察し判断する力をみる問題や、資料を活用する技能をみる問題については、おおむね良好であったが、一部に課題もみられた。
- 資料を活用して考察した結果を適切に表現する力をみる問題については、いま一歩であったが、学習の成果がみられた。

3 課題がみられた問題例

《問題例①》

- 5 (3) 下線部①の人物(源頼朝)が、源平の争乱に勝利したのち、国ごとに置いた国内の軍事・警察、御家人の指揮を行う役職を何というか。答えなさい。

【正答】 守護

【解答の状況】

- 地頭、国司、征夷大將軍、執権、老中などの誤答が多くみられた。

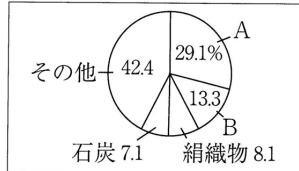
【課題】

時代の特色を理解する上で必要となる基礎的・基本的な知識や概念を確実に身に付けること。

《問題例②》

- 3 (4) 図 I は、1899年における日本の輸出総額に占める品目別の割合を示しており、<メモ>は、図 I 中の A と B の品目について説明したものである。これらを見て、A と B にあてはまる品目を、下の 1～4 からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

図 I



(日本貿易精覧により作成)

<メモ>

- ・ 政府は1872年に富岡に官営模範工場をつくり、欧米の技術を導入してAの増産と品質向上につとめてきた。
- ・ Bは、1890年代には生産量が輸入量を上回り、日清戦争後には外国に輸出されるようになった。

- 1 綿糸 2 機械類 3 綿織物 4 生糸

【正答】 A (4) B (1)

【解答の状況】

- Bを2の機械類や3の綿織物とする誤答が多くみられた。

【課題】

学習した内容と様々な資料を関連付けて、社会的事象を多面的・多角的に考察し判断すること。

4 今後の学習指導に向けて

○ 基礎的・基本的な知識や概念の確実な習得

時事的な話題や身近な生活体験などを通して社会的事象に対する関心を高め、社会科の学習を深める上での基礎的・基本的な知識や概念が確実に身に付くようにする。

○ 様々な資料を活用して多面的・多角的に考察し判断する力の育成

地図、年表、写真、新聞、統計などの資料に平素から親しみ、内容を正しく読み取るとともに、読み取った内容を他の情報と関連付けて考察し、公正に判断する力を育成する。

○ 作業的・体験的な学習活動を通して適切に表現する能力と態度の育成

観察や調査を実施し、その過程と結果を報告書にまとめ、発表するなど、問題解決的な学習活動の充実を図ることなどにより、考察し判断したことを適切に表現する能力と態度を育成する。

数 学

1 出題の特徴

- 事象の中に数量や図形の関係を見だし、数学的な表現を用いて説明する問題を出題した。
- 図やグラフの中から情報を読み取り、事象を数学的に解釈して解決する問題を出題した。
- 身近にあるものを題材として、数学的に考察し処理する中で、様々な領域の学習内容を総合的に活用して課題を解決する問題を出題した。

2 結果の概要

- 基礎的・基本的な知識・技能に関する問題については、よくできていた。
- 見いだしたことや思考の過程、判断の根拠などを数学的な表現を用いて説明する問題については、いま一步であった。
- 論理的に考えたり、柔軟に思考したりする力をみる問題については、無答が多く、いま一步であった。

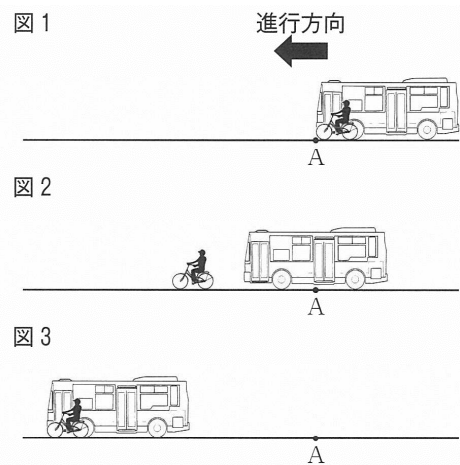
3 課題がみられた問題例

《問題例①》

4 (略)

(2) 図1のように、このバスが地点Aを出発すると同時に、バスの進行方向と同じ方向に、一定の速さで走っている自転車が地点Aを通過し、図2のように、バスを追い抜いた。

このバスが地点Aを出発してから6秒後に、図3のように、自転車に追いついたとすると、自転車の速さは毎秒何mか。求めなさい。



【正答】 毎秒 3 m

【解答の状況】

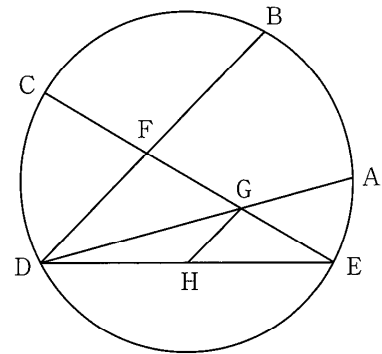
- バスと自転車の動きを関数として適切に捉えることができなかつたため、誤答や無答が多くみられた。

【課題】

一次関数や関数 $y = ax^2$ を用いて事象を捉え考察すること。

《問題例②》

- 8 右の図のように、円周上に5点A, B, C, D, Eがあり、 $\widehat{AB} = \widehat{CD}$ である。また、線分CEと線分BDの交点をF、線分CEと線分ADの交点をGとし、線分DE上に、 $BD \parallel GH$ となる点Hをとる。
- (2) $EG = GF$, $GH = 3 \text{ cm}$ のとき、線分EGの長さを求めなさい。



【考え方】

- ① $\triangle EGH \sim \triangle EFD$ を確認する。
- ② $EG : EF = HG : DF$ より $DF = 6 \text{ cm}$ を求める。
- ③ $\triangle EGH \sim \triangle DFG$ を確認する。
- ④ $EG = GF = x \text{ cm}$ において、 $EG : DF = HG : GF$ より x の値を求める。

【正答】 $3\sqrt{2} \text{ cm}$

【解答の状況】

- $EG = GF$ の条件をどのように活用するか、また、どの三角形が相似であることを活用するかなどの解決の糸口を見付けることができず、無答が多くみられた。

【課題】

図形の性質を活用し、論理的に筋道を立てて考察すること。

4 今後の学習指導に向けて

○ **基礎的・基本的な知識・技能の定着**

第3学年で関数 $y = ax^2$ を学習する際に、第1学年で学習した比例、反比例や第2学年で学習した一次関数を取り上げ、それらを比較することで関数の理解を深めるなど、関連する内容を意図的に再度取り上げ、基礎的・基本的な知識・技能の一層の定着を図る。

○ **言葉や数、式、図、表、グラフなどの相互の関連を理解する力の育成**

根拠を明らかにし筋道を立てて説明し伝え合う活動を取り入れながら、言葉や数、式、図、表、グラフなどの相互の関連を理解する力を育成する。

○ **事象を数学的に表現する力の育成**

日常生活や社会における事象を数学と結び付けて考察したり処理したりする活動を通して、数学を利用することの意義を実感できるようにするとともに、数学的に表現する力を育成する。

理科

1 出題の特徴

- 自然の事物・現象について、基礎的・基本的な概念や原理・原則を理解しているかをみる問題を出題した。
- 観察、実験を目的意識をもって行い、得られた結果を科学的に考察し、表現できるかをみる問題を出題した。
- 自然の事物・現象を客観的にとらえ、合理的に判断し、筋道を立てて考察できるかをみる問題、理科において学習した様々な分野の学習内容を総合的に活用して課題を解決する問題を出題した。

2 結果の概要

- 自然の事物・現象についての基礎的・基本的な事項に関する問題や観察、実験の技能を問う問題については、よくできていた。
- 観察、実験で得られた結果を基に考察し判断する問題については、いま一步であった。
- 観察、実験の目的や操作の理由を説明する問題については、十分ではなかった。

3 課題がみられた問題例

《問題例①》

8

[実験 2]

① 図 2 のように、水平な台の上で、コイルを固定し、磁石をとりつけた台車を置いた。

② 電源装置、電流計、コイル、抵抗を直列につないだ。電流を流すと、台車は図 2 の矢印の向きに動いた。

(2) 実験 2 の②について、次のア、イに答えなさい。

イ 台車を矢印の向きに動かすためには、図 2 に示されている磁石の上側になる極と、コイルに電流が流れる向きの組み合わせとして正しいものはどれか。次の 1～4 から 2 つ選び、記号で答えなさい。

	1	2	3	4
上側になる極	N極	S極	S極	N極
コイルに電流が流れる向き	e→f→g→h	e→f→g→h	h→g→f→e	h→g→f→e

【正答】 1 と 3

【解答の状況】

- 磁界の中を流れる電流が磁界から受ける力の向きと台車が動く向きが同じであると考え、2 と 4 を選択する解答が多くみられた。

【課題】

作用と反作用の関係など力の働きについては、日常生活や実社会における現象と関連付け、実感を伴った理解をすること。

《問題例②》

9

(3)

[実験計画]

- ① 水を入れたビーカーに、落ち葉の下から採取した土を入れ、よくかき混ぜたあと、しばらく置き、**図2**のように、土の中の微生物を含んでいる上ずみ液ができるまで待つ。
- ② **図3**のように、試験管に0.1%デンプン溶液と、①の上ずみ液を入れ、アルミニウムはくでふたをする。

図2

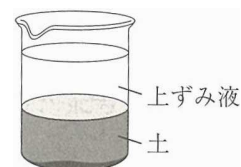
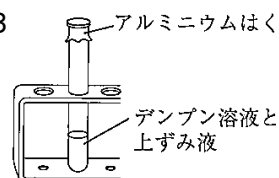


図3



イ デンプンが微生物のはたらきによって分解されることを確かめるためには、[実験計画]の②において、試験管をもう1本用意し、対照実験を行う必要がある。対照実験に用いる試験管に入れるものは何か。2つ書きなさい。

【正答例】 デンプン溶液と煮沸した上ずみ液

【解答の状況】

- 対照実験で用いる試験管に、デンプン溶液を入れていない解答が多くみられた。

【課題】

観察、実験などの探究的な活動においては、その目的を考えて計画すること。

4 今後の学習指導に向けて

○ 科学的に探究する活動を取り入れた観察、実験の重視

自然の事物・現象の中に問題を見だし、課題解決のために自ら観察、実験の計画を立て、条件設定を行うなど、目的意識をもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈する能力と態度を育成する。

○ 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力の育成

身近な自然現象、身の回りの生活用品、科学技術等を授業で取り上げ、理科の学習と日常生活や社会とを関連付けながら、学習を通して得られた知識・技能を活用して課題を解決する力を育成する。

○ 科学的に考察し表現する能力と態度の育成

仮説を立てて観察、実験を行い、表やグラフの作成、モデルの活用、コンピュータなどの活用、レポートの作成や発表などを通して、科学的に考察し表現する能力と態度を育成する。

英語

1 出題の特徴

- リスニングテストでは、基礎的な事柄を扱い、「聞くこと」のほかに「話すこと」や「書くこと」を結び付けた、実際のコミュニケーションに近い能力をみる問題を出題した。
- 対話文や物語などを読んで、日常的な会話表現を使う力、前後の流れから判断して英語で適切に表現する力、文脈を正しく理解し、概要や要点を的確にとらえる力をみる問題を出題した。
- 理解した内容について英語で発信する力をみるため、記号以外は英語による解答を求めることとした。

2 結果の概要

- リスニングテストでは、基礎的・基本的な表現を用いた短い対話を聞いて理解する力をみる問題は、よくできていた。少し長めの対話を聞き、概要や要点を捉えて書く力をみる問題は、いま一歩であった。
- 相手に伝えたい内容を英語で書く問題については、無答が多く、いま一歩であった。
- 物語文を読んで、英語の問いに対して適切な英語の選択肢を選ぶ問題については、おおむねできていた。

3 課題がみられた問題例

《問題例①》

1 テスト3

〈問題文は一部省略〉

下の【メモ】は、Naoki が自宅の留守番電話のメッセージを聞きながら書いたものである。そのメッセージを聞いて、(A)、(B)にはメッセージの中で用いられた英語1語を、下線部(C)には適切な2語以上の英語を、下線部(D)には適切な数字を書きなさい。

【メモ】

・ I have to _____ (C) _____ this evening.

【正答例】 call David

【解答の状況】

- 対話の中で使われていた call me をそのまま使った解答が多くみられた。
- 情報を正確に聞き取れていない解答や無答が多くみられた。

【課題】

自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること。聞き取った内容を状況に適した表現で言い換えること。

《問題例②》

5

〈問題文は一部省略〉

Takeru は、【連絡黒板】に書かれた明日の予定を見ながら *Chris* にその内容を伝えている。下線部(3)には3語以上の英語を書きなさい。

【連絡黒板】

放課後 公園清掃のボランティア活動

【対話】

Chris: By the way, what will we do at 4 p.m?

Takeru: Volunteer work. Students are _____ (3) _____ the park near our school.

【正答例】 going to clean

【解答の状況】

- 未来の予定を **be going to** を用いて表すことができず、無答が多くみられた。
- 直訳すると英語になりにくい「公園清掃のボランティア活動」を二文で表現する工夫をすることを踏まえず、**volunteer** を再度用いた解答が多くみられた。

【課題】

伝えたい情報を自分の知っている語彙等を活用して適切に表現すること。

4 今後の学習指導に向けて

○ 基礎的・基本的な事項の確実な定着

基礎的・基本的な語彙や英文を学習する際に、単に暗記するのではなく、「聞く」「話す」「読む」「書く」という言語活動を適宜組み合わせるなどして、使い方を理解する経験を積み重ねることで、確実な定着を図る。

○ 文脈に即して内容を読み取る力の育成

一語一語の意味の確認、一文一文の解釈などの断片的な学習にとどまらないように、内容を日本語や英語でまとめるなどの活動を取り入れ、本文の概要や要点、筆者の心情などを文脈に即して読み取る力が身に付くようにする。

○ 情報が正しく伝わるように話したり書いたりする力の育成

授業での教員・生徒間及び生徒同士の英語によるやりとりや、「手紙、日記、スピーチの原稿を書く」などの自己表現活動の中で、自分の伝えたいことを知っている語彙等を活用し、相手に正しく伝わるように話したり書いたりする力を育成する。

平成27年度山口県公立高等学校入学者選抜における学校指定教科検査得点状況

1 受検者数及び教科別得点状況

教科名	国語	数学	英語
受検者数	3,609 (3,512)	3,709 (3,610)	3,810 (3,712)
平均点	13.3 (11.8)	6.3 (6.7)	8.3 (12.0)
最高点	20 (20)	20 (20)	20 (20)
最低点	0 (0)	0 (0)	0 (0)

注1 2教科又は3教科実施の場合、検査時間内での各教科の時間配分については、受検者の任意であるため、平均点、最高点及び最低点は参考として示したものである。

2 各教科とも配点20点である。

3 ()内の数値は、昨年度のものである。

2 3教科全てを受検した者の得点状況

(1) 受検者数及び得点状況

受検者数	3,609	(3,512)
平均点	28.1	(30.8)
最高点	56	(60)
最低点	4	(3)

注1 国語、数学及び英語の3教科全てを受検した者について集計したものである。

2 得点は60点満点である。

3 ()内の数値は、昨年度のものである。

(2) 得点の分布状況

得点範囲 [点]	人数 [人]	割合 [%]
56 ~ 60	4	0.1
51 ~ 55	27	0.7
46 ~ 50	120	3.3
41 ~ 45	234	6.5
36 ~ 40	357	9.9
31 ~ 35	595	16.5
26 ~ 30	807	22.4
21 ~ 25	713	19.8
16 ~ 20	464	12.9
11 ~ 15	210	5.8
6 ~ 10	69	1.9
0 ~ 5	9	0.2
合計	3,609	100

注 割合は、小数第2位を四捨五入したものである。

平成27年度山口県公立高等学校入学者選抜

学校指定教科検査の結果の概要及び今後の学習指導に向けて

平成27年4月
山口県教育委員会

平成27年度山口県公立高等学校入学者選抜における 学校指定教科検査の結果について

1 出題の概要

平成27年度の学校指定教科検査の出題については、学習指導要領に準拠しつつ、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力をみるとともに、知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力などをみる問題を出題した。

【国語】

実生活に即した文章や図などを基に思考し、目的や場面に応じて適切に表現する力をみる問題を出題した。

【数学】

実生活の様々な場面で数学を利用して考察する力や、課題を解決するために構想を立て数学的な表現を用いて説明する力をみる問題を出題した。

【英語】

場面に合った内容を適切に表現したり、自分の考えを読み手に正しく伝わるように書いたりするなど、実際のコミュニケーションを目的として英語を運用することができる力をみる問題を出題した。

2 結果の総評

目的に応じて必要な情報を取り出すことは、おおむねできていたが、取り出した情報を基に思考・判断し、適切な表現を用いて説明したり、課題を解決する方法を導き出したりすることに関しては、更に努力が必要な状況がみられた。

【国語】

集めた材料を分類するなどして整理し、文章を構成する力をみる問題はよくできていたが、読み取った内容を目的や場面に応じて適切に表現する問題については、いま一歩であった。

【数学】

実生活の場面で一次関数を見いだす問題は、おおむねできていたが、数学的な表現を用いて、根拠を明らかにし筋道立てて説明する問題については、十分ではなかった。

【英語】

適切な動詞を選び、形を変えて答える問題は、おおむねできていたが、場面や状況に応じて適切な英文を書いて答える問題については、いま一歩であった。

3 課題がみられた問題例

《国語》

一

<問題文は、「小林秀雄 学生との対話」から。ここでは省略。>

(四) 右の対話で小林は二人の学生の質問に対して、それぞれ答えている。それぞれの対話の要旨から読み取れる小林の考えを次の図のようにまとめた。その考えを、 にあてはまるように、「知識」・「信念」・「学問の喜び」・「困難」の四つの語句を用いて、五十字以内で説明しなさい。

(図はここでは省略)

【正答例】 知識を我がものとする学問の喜びがなければ信念は育たないが、学問の喜びは困難をとまなうものでもある(という考え。)

【解答の状況】

- 「学問の喜び」と「困難」の関係性が正しく説明できていない解答が多くみられた。
- 文の整合性がみられない解答が多くみられた。

【課題】

論理の展開を正確に理解し、条件に従って内容をまとめ、表現すること。

《数学》

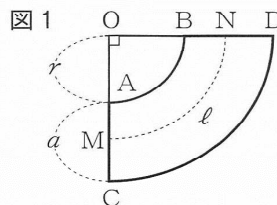
- 2 Pさんのクラスで、それぞれがつくった問題を交換し、解き合う活動を行った。この活動では、まず、先生から次のようなカードを渡され、このカードにかかれた条件をもとに、問題をつくっている。

先生から渡されたカード

図1のように、半径が r 、中心角が 90° の扇形OAB、半径が $a+r$ 、中心角が 90° の扇形OCD、扇形OCDから扇形OABを除いた図形ACDBがある。

また、2つの線分 \overline{AC} 、 \overline{BD} の中点をそれぞれ、M、Nとし、扇形OMNの \widehat{MN} の長さを l とする。

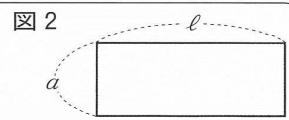
この条件をもとに、問題をつくり、下にかきましょう。



次の(1)、(2)に答えなさい。

- (2) Pさんは、図1の図形ACDBの面積と、扇形OMNの \widehat{MN} の長さ l に着目して、次の問題をつくった。

図1の図形ACDBの面積 S は、図2のような、縦の長さが a 、横の長さが l の長方形の面積 al と等しくなることを証明しなさい。



Pさんがつくった問題の S と al を、それぞれ a, r を使った式で表して、 $S = al$ となることを証明しなさい。ただし、円周率は π とする。

【正答例】証明 面積 S は、半径 $a+r$ 、中心角 90° の扇形OCDの面積から、半径 r 、中心角 90° の扇形OABの面積をひいたものなので

$$\begin{aligned} S &= \frac{1}{4}\pi(a+r)^2 - \frac{1}{4}\pi r^2 \\ &= \frac{1}{4}\pi(a^2 + 2ar + r^2) - \frac{1}{4}\pi r^2 \\ &= \frac{1}{4}\pi a^2 + \frac{1}{2}\pi ar + \frac{1}{4}\pi r^2 - \frac{1}{4}\pi r^2 \\ &= \frac{1}{4}\pi a^2 + \frac{1}{2}\pi ar \quad \dots\dots ① \end{aligned}$$

また、 al について、

l は、半径 $\frac{1}{2}(a+r)$ 、中心角 90° の扇形OMNの \widehat{MN} の長さなので

$$\begin{aligned} l &= \frac{1}{4} \times 2\pi \left(\frac{1}{2}(a+r) \right) \\ &= \frac{1}{4}\pi a + \frac{1}{2}\pi r \end{aligned}$$

よって

$$\begin{aligned} al &= a \left(\frac{1}{4}\pi a + \frac{1}{2}\pi r \right) \\ &= \frac{1}{4}\pi a^2 + \frac{1}{2}\pi ar \quad \dots\dots ② \end{aligned}$$

①、②から

$S = al$ が成り立つ。

【解答の状況】

- 扇形の面積や扇形の弧の長さを求める際に、 π を用いていない解答が多くみられた。
- 解決の糸口を見付けることができなかつた解答も多くみられた。

【課題】

課題解決のために構想を立て、数学的な表現を用いて説明すること。

《英語》

1

〈問題文等の一部省略〉

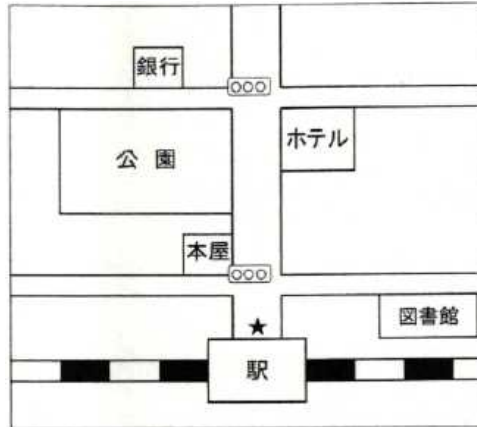
次は、Hitomi が外国人の男性に話しかけたときの様子を表した絵 (A) と、2 人がいた周辺の地図 (B) である。下は、そのときの 2 人の対話である。□ に、適切な英語を入れて道案内を完成させなさい。英語は 2 文以上になってもよい。

Man: I want to go to a bank. Could you tell me the way?

Hitomi: Sure. It's not far from here. Now we are in front of the station.

Man: I see.

(B)



★ 2人がいた場所

【正答例】 Go along this street. Turn left at the second light. Soon you'll see the bank on your right.

【解答の状況】

- 適切な表現を使って道案内ができていない解答が多くみられた。
- Turn left という表現は使われているが、どこで左に曲がればよいか適切に伝わらない解答が多くみられた。

【課題】

基本的な語彙等を場面や状況に応じて活用する力を身に付けること。

4 今後の学習指導に向けて

今後とも、学習内容と生活場面・実社会との関連を考えながら学習することにより、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を更に身に付けていくことが大切である。

【国語】

様々な文章を読んで、構造や内容を的確に理解するとともに、文章や図表などから読み取った情報を活用し、目的や場面、条件に応じた適切な言葉で表現できるようにする。

【数学】

日常生活や社会における事象を数学と結び付けて考察したり処理したりする活動を通して、見いだしたことや思考の過程、判断の根拠などを的確に表現したり、数学的に説明したりする力を育成する。

【英語】

場面や状況に応じて適切な表現を使って話したり書いたりする活動を十分に行い、正確な表現が定着するようにするとともに、自分の考えや気持ち、事実などを適切に表現できる力が身に付くようにする。